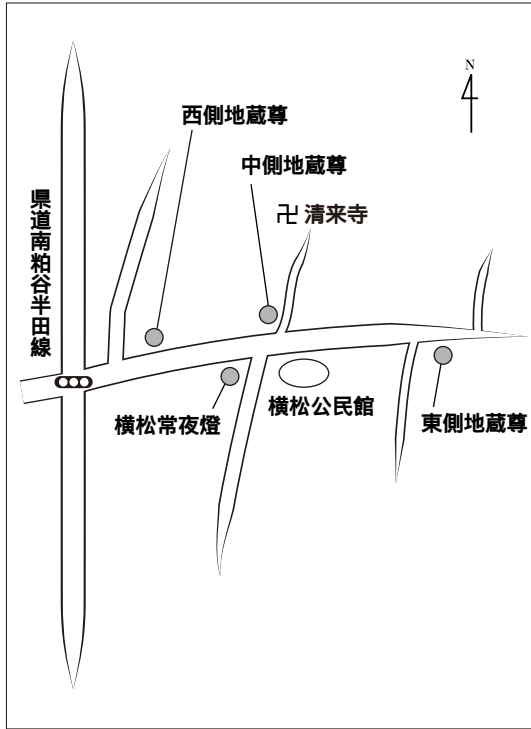


# シリーズ

## 阿久比を歩く ⑨⑥



“子安地藏”が安置されるお堂

町の石造物が『阿久比の石造物』（昭和五十三年、町文化財調査委員会編集）にまとめられている。今回からの調査報告を参考に、「石造物巡り」をすることにした。  
本編では町内を六カ所のコースに分けて石造物が紹介されている。まずは「横松・萩・宮津コース」に出かけた。  
県道南粕谷半田線の横松交差点南の信号を東に向かい、横松公民館手

### 石造物を巡る（横松・萩・宮津コース⑦）



前の道を南へ少し進んだところに、「横松常夜燈」がある。  
常夜燈は街路灯のない時代に、一晩中灯を付けて通行人の灯台の役割を果たした。この常夜燈もかつては「村人」が毎晩交代で菜種油の補給をして明かりをともし、「村内安全」を願っていた。現在でも電気がつながらず、夕方には明かりがともるようになってきている。  
常夜燈は、高さが約二メートルもある立派な灯籠。中央のくびれた部分に、「天保四癸巳正月吉日」と刻まれた文字がはつきりと分かる。江戸時代末期から人々の生活を見守ってきた。常夜燈横にある倉庫で作業する女性が「毎日朝と夕の二回、必ず手を合わせにくる夫婦がいますよ」と教えてくれた。ほほ笑ましい話を聞き、私と友人は常夜燈に向かい手を合わせる。  
次に「横松東側地藏尊」を探す。横松公民館前を通り、東側に進む。「この時期、目がかゆくて、くしゃみが出て体調悪いよ。君はどう？」

と私の問い掛けに、「花粉症なんですか？」「ええ……」。友人との付き合いも長く、毎年この話題をしているのに、本当に私が花粉症であることが分かっていないのだろうか。  
横松交差点南の信号を東に進んでから二つの地藏尊を見つけた。横松地区には三つの地藏尊がある。それぞれ「西側・中側・東側地藏尊」と呼ぶ。お堂の中には地藏を安置。花や水が供えられ、人々に大事にされている。  
「東側地藏尊」の前に立つ。天保年間横松村住人がわが子の安産などを祈願して造った「子安地藏」であると伝えられる。昭和五十一年の豪雨でお堂が壊れるなど、安置場所が点々とし、現在は道路脇一画の小さなお堂に納まる。  
小さな地藏は目が下がり、口元が緩む。穏やか顔だ。地元では「眼病平癒」に効く地藏とも言われているようだ。「かゆい目が治りますように」と私は願う。友人は「子宝に恵まれますように」と二人で声を出して願った。ご利益を期待して、次に向かった。



横松常夜燈